

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

ゆたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



夫が定年退職したという奥様方に聞くと、夫に毎日常の中でゴロゴロされるのも嫌ですが、「昼食が一番嫌だ」と多くの方が言います。

朝食は一日の始まり、それなりに頑張って作ります。夕食はまあ、最も力を入れてごちそうを作るといのが世の習いでしょう。

対する昼食。奥様方は朝のあれこれを終え、やっと一息。弁当の残りやそうめんなどで簡単に済ませ、自分の時間を捻出します。たまには仲のよいお友達と、少し豪華に「マダムランチ」というのも楽しみですよ。

しかし、夫は朝食が終わった途端、時には食べている最中から「昼は何を食べさせてくれる？」などと言います。これが嫌だそうです。

私は学生時代、知人の喫茶店でアルバイトしていましたが、夜5時間で時給は1000円でしたが、晩飯が付きコーヒーのいれ方や料理を教えるという条件。実際の晩飯は自分で作ったチャーハンが主でしたが、貧乏学生には大変ありがたいことでした。

ある時、常連のご夫婦から「今日は真鍋のチャーハンが食べたい」と名指しで注文がありました。いかにパラパラ

に仕上げるかが勝負。我ながら「よし」と思った料理ができましたが、マスターは少し試食して、すべさまゴミ箱に捨て、私の頭をフライパンでたたきました。私は理由が分からず、ゴミ箱から手にとつて食べると、うくん、しょっぱいんです。

閉店後に反省会をしました。大酒飲みの二人とも、仕事で疲れているのかビール一本ですぐに酔います。マスターいわく「塩を振る回数が少し多かった。薄いには後で足せるけれど、濃いのはどうにもならない」。雨のち晴れの気分です。うれしかったですね。この日から私はチャーハン担当になりました。

そんなこんなで今でも料理は好きですし、得意でもあります。子どもが小さい頃、スパゲティを作ったところ大受けで、「オトスパ」と名がついた定番となりました。分量であれもこれも入れるスパイスなどがうまくはまり、ガツンとした味になったのが良かったのでしよう。健康のことを考え、我が家も薄味の方向でしたから、その反動だったのかも知れません。

ところで今日の本題ですが、私は「男も台所に入るべし」と思っています。たまにはおいしいものを作って、奥様をいたわってみませんか。しかし、その時に最も大切なのは「後片付け」です。食器を洗う、使った道具や調味料を元あった所に戻す。ここまできちんとその「男の料理」です。